

齋賀医院壁新聞

文献情報と医院案内 齋賀医院ホームページに戻る場合戻るボタンをおしてください

検索ボックス

<< 少量アスピリンの効果に体重換算が必要 | TOP | 平成30年7月豪雨の感染症への注意 >>

2018年07月26日

軽症脳梗塞と一過性脳虚血発作に対する併用抗血小板療法の有用性と安全性

軽症脳梗塞と一過性脳虚血発作に対する併用抗血小板療法の有用性と安全性
Clopidogrel and Aspirin in Acute Ischemic Stroke and High-Risk TIA
N Engl J Med 2018; 379: 215-25.



雑誌NEJMに、軽症脳梗塞と高リスクの一過性脳虚血発作(TIA)の発症後に、抗血小板薬のアスピリンとプラビックスの併用と、アスピリン単独との比較試験が掲載されていました。

軽症脳梗塞とは、NIHSSスケールで3点以下、高リスクのTIAはABCD2スケールで4点以上としています。

以前より軽症脳梗塞とTIAは、発症後90日間で3~15%に脳梗塞の再発があるとされています。アスピリンとプラビックスの併用は、急性冠動脈症候群ではその有効性が証明されています。

今回はTIAと軽症脳梗塞に対して研究されました。POINT研究と命名されています。同時期に中国でも同様の研究発表がされていて、CHANCE研究と命名されています。このCHANCE研究では、発症後24時間以内に治療を開始したところ、併用療法の方がアスピリン単独より32%のリスク軽減があり、出血などの合併症は同程度であったとの報告です。

本研究を纏めてみますと

1) 2010年から2017年にかけて、10か国で登録された18歳以上の4,881名が登録されました。登録と除外のクライテリアは下記のPDFをご参照ください。82.8%がアメリカ人でした。無作為化試験において、軽症脳梗塞または高リスク TIA の患者に、クロピドグレルを1日目に負荷用量 600 mg、その後は75 mg/日投与し、アスピリン (50~325 mg/日) を併用する群と、アスピリンのみを同じ用量範囲で投与する群に割り付けました。主要有効性転帰は、90日の時点での主要虚血性イベントの複合リスクとし、脳梗塞、心筋梗塞、虚血性血管イベントによる死亡と定義しています。

2) データ安全性モニタリング委員会が、クロピドグレルとアスピリンの併用は、アスピリン単独と比較して、90日の時点での主要虚血性イベントのリスクが低いことと、重大な出血リスクが高いこととの両方に関連すると判定したため、試験は予定患者数の84%が組み入れられたあとに中止されました。主要虚血性イベントは、クロピドグレル+アスピリン群 2,432 例中 121 例 (5.0%) とアスピリン+プラセボ群 2,449 例中 160 例 (6.5%) に発生し (ハザード比 0.75)、大部分は初回イベント後1週間に発生しています。重大な出血は、クロピドグレル+アスピリン群の 23 例 (0.9%) とアスピリン+プラセボ群の 10 例

<< 2020年05月 >>

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

最近の記事

- (05/20) [新型コロナにBCGは効果ない・イスラエルより報告](#)
- (05/18) [新型コロナによるニュー・ノーマルの選択](#)
- (05/18) [医師の退職について・この時期](#)
- (05/15) [小児の新型コロナ感染症・JAMAより](#)
- (05/13) [オリーブオイルが心血管疾患の予防に](#)

最近のコメント

- [小児の新型コロナ感染症・JAMAより](#) by (05/18)
- [小児の新型コロナ感染症・JAMAより](#) by (05/16)
- [唾液によるPCR検査](#) by (05/12)
- [新型コロナに感染した乳児の入院における汚染状態](#) by (05/10)
- [新型コロナの軽症、中等症の総説・NEJMより](#) by (05/06)

タグクラウド

カテゴリ

- [小児科](#) (193)
- [循環器](#) (200)
- [消化器・PPL](#) (118)
- [感染症・衛生](#) (113)
- [糖尿病](#) (110)
- [喘息・呼吸器・アレルギー](#) (84)
- [インフルエンザ](#) (99)
- [肝臓・肝炎](#) (60)
- [薬・抗生剤・サプリメント・栄養](#)

- 指導(45)
- 脳・神経・精神・睡眠障害(39)
- 整形外科・痛風・高尿酸血症(29)
- ワクチン(31)
- 癌関係(10)
- 脂質異常(28)
- 甲状腺・副甲状腺(17)
- 婦人科(8)
- 泌尿器・腎臓・前立腺(31)
- 熱中症(7)
- 日記(17)
- その他(65)

過去ログ

- 2020年05月(15)
 - 2020年04月(18)
 - 2020年03月(18)
 - 2020年02月(18)
 - 2020年01月(19)
 - 2019年12月(14)
 - 2019年11月(15)
 - 2019年10月(18)
 - 2019年09月(18)
 - 2019年08月(14)
 - 2019年07月(14)
 - 2019年06月(16)
 - 2019年05月(14)
 - 2019年04月(18)
 - 2019年03月(19)
 - 2019年02月(19)
 - 2019年01月(15)
 - 2018年12月(16)
 - 2018年11月(20)
 - 2018年10月(20)
 - 2018年09月(18)
 - 2018年08月(24)
 - 2018年07月(18)
 - 2018年06月(18)
 - 2018年05月(20)
 - 2018年04月(19)
 - 2018年03月(20)
 - 2018年02月(14)
 - 2018年01月(14)
 - 2017年12月(20)
 - 2017年11月(17)
 - 2017年10月(22)
 - 2017年09月(18)
 - 2017年08月(20)
 - 2017年07月(23)
 - 2017年06月(19)
 - 2017年05月(19)
 - 2017年04月(22)
 - 2017年03月(20)
 - 2017年02月(18)
 - 2017年01月(21)
 - 2016年12月(17)
 - 2016年11月(25)
 - 2016年10月(22)
 - 2016年09月(21)
 - 2016年08月(20)
 - 2016年07月(26)
 - 2016年06月(27)
 - 2016年05月(24)
 - 2016年04月(24)
- 以降はカテゴリーで検索してください。

(0.4%)に発生しました。(ハザード比 2.32)

3) 結論的には、90日間の経過で患者1,000人に対して15人の虚血性疾患の予防が出来るが、5人の重大な出血性疾患が発生する。中国初のCHANCEと異なる結果だが、投与方法が異なっている点やアジア人はプラビックスの活性型への遺伝子が多型であるのが原因かもしれない。
 (脳梗塞の発生は1か月以内が多いが、出血の副作用は一貫してある事から、その想定でCHANCEは投与方法を設定しています。しかし脳梗塞の発生は1か月過ぎても多いとの報告もあります。私のブログをご参照ください。)

4) 軽症脳梗塞または高リスク TIA を起こした患者のうち、クロピドグレルとアスピリンの併用療法を受けた患者は、アスピリン単独療法を受けた患者と比較して、90日の時点での主要虚血性イベントのリスクは低かったが、重大な出血のリスクが高かった。

私見)
 併用療法の利害に関しては、十分に患者さんとコンセンサスをとる事が肝心ですが、急性期を過ぎて逆紹介された時に、併用療法から単独療法に切り替えるかは、かなり思案しそうです。

[文献より \(2\).pdf](#)



ブックマーク

【脳・神経・精神・睡眠障害の最新記事】

- ※ [良性頭位変換性眩暈症 \(BPPV\) の問診表...](#)
- ※ [脳卒中の再発予防のための血圧管理](#)
- ※ [過睡眠は脳卒中の危険因子](#)
- ※ [積極的降圧治療と脳の白質病変の関係](#)
- ※ [菜食主義者は脳卒中の心配？](#)

posted by 斎賀一 at 14:08 | [Comment\(0\)](#) | [脳・神経・精神・睡眠障害](#)

この記事へのコメント
コメントを書く

お名前:

メールアドレス:

ホームページアドレス:

[RDF Site Summary](#)
[RSS 2.0](#)

コメント:

